大切なのは「チームワーク」

阿久根市副市長
春原 善幸 SUNOHARA Yoshiyuki

平成11年 4月 自治省採用
行政局行政体制整備室
平成13年 1月 総務省自治行政局市町村課行政体制整備室
平成13年 4月 奈良県企画部地域政策課
平成14年 4月 同 総務部市町村課
平成15年 4月 公営企業金融公庫融資部融資第一課（兼 第二課）
平成17年 4月 自治行政局選挙部管理課選挙啓発係長
平成18年 9月 国土交通省都市・地域整備局企画課企画第二係長
平成20年 7月 同 まちづくり推進課担い手活動推進係長
平成21年 4月 自治行政局公務員部福利課企画係長
平成25年 4月 自治行政局公務員部公務員課公務員第一係長
平成26年 4月 自治行政局公務員部公務員課給与能率推進室課長補佐
平成28年 4月 自治行政局公務員部公務員課主幹
平成29年 4月 現職

■まちづくりは人づくり

「最初の2か月で成果を出さないと、住民から『あの人はダメだ』という空気が流れ、とてもやりづらくなる」。市に赴任する際の地元関係者からのアドバイス。正直、不安の方が大きかった。でも、だからと言って一人で突っ走ってはいけないと思った。大切なのは「チームワーク」、組織としていかにパフォーマンスを発揮するか。心がけたのは、職員を巻き込んで一緒に議論し「考える」こと。この課題の本質は何なのか、どうすればうまくいくか。そして、いつまでに何をすべきかの段取りをつけて迷わず「実行する」。「何でもやってみるもんですね」…ひとつの案件がうまくいって担当職員から笑顔で報告を受け、つい口にする言葉。最近、その機会が増えてきた。この小さな成功体験の積み重ねが職員の自信につながる。成果の積み重ねで街が変わる。職員の約２５％は２０代という若い組織。今日も副市長室ではホワイトボードを前に職員と熱い議論が交わされている。

■国での経験が成長の糧

私は、「まちづくり」に携わることが夢で自治省に入省しました。当時は地方自治体への就職と相当迷いました。どちらに進めば、将来、自分がやりたい「まちづくり」ができるのか。

これまで様々な業務に携わりました。大手広告代理店とタイアップした選挙啓発、民間による都市再生プロジェクト、社会保障・税一体改革など数々の法令の立案作業、国会審議対応…笑ったり泣いたり、悔しい思いをしたことも何度もありました。でも、上司・同僚と切磋琢磨し、たくさんの仲間と出会い、「チームワーク」で取り組んだことは私の財産です。今こうして県内最年少の副市長として市政の意思決定に携わることができるのは、こういった経験があったからこそです。

「仕事ができる人」とはどういった人か。それは頭の回転が早い人ではなく、「優しい人」「思いやりのある人」、つまり、相手の立場に立って物事が考えられる人です。次は是非、あなたの夢をかなえてください。

Week Schedule

□ Mon ロケ地誘致に成功した映画のキャスト、スタッフさんとの交流会。映像を通じた市のPRに期待が高まります。

□ Tue 担当課が作成した議会答弁書の説明&チェック。約80問…ほぼ1日がかりです。

□ Wed 国保診療所のあり方をめぐって、医療法人の理事長との直接交渉。プレッシャーのかかる場面です。

☑ Thu 市議会での一般質問。市長を補佐できるよう、しっかり答弁します。

□ Fri 中学校の卒業式に市を代表して祝辞。涙を浮かべながら歌う卒業生に心を洗われる気持ちです。

Private Life

漁港を抱える阿久根市。新鮮な鯛、アジ、イワシなど約150種類の魚介類だけでなく、黒豚、和牛日本一に輝く鹿児島黒牛、ボンタンや大将季の果樹などまさに「食」のまち。単身赴任していることもあって、自宅アパートを会場に同僚と一緒に地元酒蔵の焼酎を片手に地元食材を堪能します。現地でしか食べることができない、これが本当の贅沢です。